
変な能力。

夢幻

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

変な能力。

【著者名】

NO362N

【作者名】 夢幻

【あらすじ】

とあるところにある学校に通う普通の一人の少年がいた。だが、ある日から、一人がある能力を手に入れた…。

どんどん、長くしていく小説です。これから、さらに行くくなるかもしません。

(前書き)

「メディア要素は少ないです。
ファンタジー要素も少ないです。」

「なあ、雪春。^{ゆきはる}
なんだ、貞家。^{さだいえ}」

「突然だが、俺は『ダメージを受けるとランダムで能力が発動!』
と言うわけのわからない能力を手に入れた。」

「その能力意味なくね?ここ、『異世界に飛ばされた、普通の人間。
』とか、『悪魔に狙われた人間』とか、そんな設定は、無い普通の
学生だぞ。」

「設定って言うな。とりあえず、何故か、もらつたんだ。」「
誰だよ?こんな何の設定もない世界で、能力くれたやつは。」「
だから、設定って言うなつて。とりあえず、闘おうぜ。」

「闘うのは、良いけど、なにをしてお前は、その能力を手にいれた
んだ?」「俺のおじいちゃんが、誕生日に何が欲しいって聞かれた
から、『普通の人とは、違うなにか』って言つたら、もらつた。」「
お前のおじいちゃんの何者なんだ?...?」

「陰陽師。」

「陰陽師は、そんな訳の分からない能力を渡すものなのか。」「
まあ違うだろうが、くれたんだ。あんまり気にするな。」「
ん、なんか納得いかないが、まあいいや。で、俺は何をしたら
いいんだ?」

「ちょっと待つてろよ、俺は『自分の体を殴つて、別空間を作り出
す能力。』を発動するから、ちょっと待つてくれ。」

ドカッ

「よし、できた、もういいから、かかつてこい。」「
行くぞ、そらつ!」

ドカッ

「よつしやあああ!!!!能力発動!『殴つてきた、相手の名字を斬
藤に変える!』ってなんじやこりやあああー!」

「藤に変える!』ってなんじやこりやあああー!」

「え？ 何？ どうこいつ」と…？」

「えーと、お前の名字が『長良美』から『斎藤』に変わりました。」

「なにその、意味の分からない能力は…。」の闘いが終われば、戻るんだよな。」

「多分な。戻らなかつたら、区役所に行つて改名すればいい話だから。」

「それは、とてもめんどくさい事だと思つんだが…。」

「気にしてたらめんどくさいから、そのことは後にしり、さあ、もう一度こい！ もしかしたら、名字が戻るかも知らないしな。」

「はあ、めんどくせえ。まあ、いくぞ…」

ドカッ

「よつしゃああ！ 能力発動！ 『自分の名字を空巴牙佐紀に変更！』

つて俺も変わつたよ…」

「お前、すうじい名前になつたな。変わる前の名前の夜飼寄つてのもすごいけど、変わりすぎだ。」

「そろそろ次の能力を発動して終わることを願うわ。」

「そうだな、早くやつてくれ。」

「いくぞつ…」

ドカッ

「よつしゃああ！ 能力発動！ 『空を飛べるぐらいの能力！』 つてこれ、どこかで聞いたことがある能力に近いんだが…。」

「そうだな、俺もだ。でも、まったく別の能力と考えよう、そうしないとこの話が危ない。とりあえず、もう一発！』

パシンッ

「痛つ、パーで叩くことはないだる…。まあいいか、能力発動！』

全ての人に翼をはやす能力！』と言つわけで、翼が生えました。」

「俺等、どんどん人間離れしていつてなくね？』 「そうだな。でも、お前は多分飛べないはずだよな。」

「そりだらうな、これの一つ前の能力能力が『空を飛べるぐらいの能力』だったから、俺のことは言つてないだろ。』 「じゃあ、次は、

どんな能力だろうな。」

「調べるか。行くぞ。」

「パーはやめろよ、皮膚がひりひりするから。」

「ゴンッ

「おし、また能力発動！『地面を壊滅させる能力』だつてさ。」「わかつてゐる。だから何？」

「まず、お前が落ちます。そして、このまま、俺は、戻ると、お前が土か壁の中に埋もれた状態になります。」

「あ…、俺は死ぬのか、でも、もう少し生きたいから、お前に捕まるぞ。」

「いいけど、その状態で、俺を殴つとかないと死ぬぞ、お前。「そうだな、じゃあ、いくぞ。」

ガスツ

「いつて…、とび乗ると同時に殴るなよ。まあとりあえず、能力発動。『この対戦の最初から2、3回繰り返す。』なにこれ、すごいめんどくさい能力発動したんだが。」

「とりあえず、繰り返すぞ。」

ガスツ

「やつと、三回目か…。何分たつた？」

「20分ぐらいじゃないか？それにしても、もう少し、優しく殴れよ、結構痛いんだぞ。」

「次は、なんだろな。同じ能力しか、出てこないから、ちょっとワクワクしてきたぞ。」

「もう、早くやれ、めんどい。」

「じゃあいくぞ。」

ガスツ

「能力発動…、『I』の戦闘を一番最初のこころに戻す能力』やつと、元に戻るつてさ。よかつたな。」

「確かに。やつと、この地獄から解放される。」

「確かに、同じことの繰り返しは、しんどかった。」

「もうこれ、辞めよう。精神的にしんどい。」

「そうだな、俺は、肉体的にしんどい。」

「こんなことは、もうこりこりだ……。」

この後、一人は、この鬭いを終わらせ、家に帰つて行つた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0362z/>

変な能力。

2011年12月1日14時53分発行